

テーマガーデンの設計と ボランティアによる花作りの指導に力を入れて

林 角 郎

館山駅前花壇のその後

「花業」の前号で、JR館山駅前花壇の設計を依頼され、さらに花壇にテーマ性を持たせている事例について述べました。平成22年の春夏作は予定通り、その年の千葉国体にちなむ設計で植栽しました。設計としてこれも前回述べた通り、サルビアの白と青の品種で千葉県章を表現しましたが、青の品種がやや不揃いのまま過ぎ、またマスコットのチーバクンを示すセンニチコウの植え込みは平面を横から花壇の弱点のため、やや目立ちませんでした。しかし、市内のレジャー施設のファミリーパークからチーバクンの大型トピアリーが持ち込まれ、これと白の千葉県章と合わせ、ほぼ目的は達せられました。

その後、11月以降は前号にも示した計画の通り、江戸時代にこの地域に起きた万石騒動と言われる農民騒動で犠牲になり処刑された3人の義民を記念する300年祭がこの年の11月20日に行われたため、安房三義民花壇と名づけました。

デザインとして中心に3稜の星形を作って、アイスランドポピーのこれまでも使っているカクテル系のイエロー、オレンジ、レッドの3品種を植え、その3稜の先端に犠牲となった3人の名主の名前を記した白木の板を立てました。その周囲には関係した27の名主たちが責任者がわからぬように訴状を記した傘型連判状にちなみ、9色のビオラ品種を3繰り返しで配した27の扇型図形で植えました。このビオラの品種と花色

の配置は苗の育成をお願いしている落合哲平さんにお任せし、サカタのタネから新しく発売されたフルーレシリーズの9色の品種を利用しました。この品種選定は扇型配置の図形とうまくマッチし、花は5月末まで見事な状態で咲き誇り、9色のビオラの花がそれぞれの花色を示して盛り上がりました。このため、この花壇は館山市内でもかなり評判を呼び、館山市長からも感謝されました。

次の平成23年度の栽培はやや遅れて、7月11日に植えましたが、これは3月11日に発生した東日本大震災の被害に関連して被災地の援助激励をテーマとしました。実は事前には、前号中にも述べたように、館山市の港湾整備事業のPRをテーマにしていたのですが、今回の事情でそのまま海と陸地の表現を利用することとしました。

写真に示すように、3方向に外側から3区分の円を描き、一番外がブルーのイソトマで海を、その中をジニア‘プロフュージョン’の白で砂浜を、オレンジの品種で市街地を示しました。この原稿を書く8月末にはイソトマの生育が遅れていましたが、いずれ花で覆われて、秋末まで続くものと思われま

す。そのあとは前号に述べたように市内西岬地区のお坊さんが大正2年に安房地域で初めてキンセンカを栽培して東京の築地市場に出荷し、この平成25年が100年目に当たることと、同じ西岬地区のKKクロカワストックで育成したストックの全品種による切花が全国主要市場のストックの8割以上を占めているという日本花



平成22年冬
館山駅前安房三義民三百年祭記念花壇



平成 23 年夏
海と市街地を示した東日本大震災援助激励花壇

普及センターの調査結果を記念して、キンセンカとストック、そしてやはり館山市神戸地区で特産のアイランドポピーを加えた3種を植えて、安房花作り100年記念花壇とする予定です。この安房の花は夏の海と市街地の花壇と共に、2年間行う予定にしております。

ボランティアの仲間と公民館の花壇栽培を実施

なお筆者としてはもう一つ館山市中央公民館の花壇の栽培をボランティアの人々に指導しており、この方に目下力を注いでおります。

この花壇栽培は平成18年春に、この公民館にある約90㎡ほどの花壇の栽培が、当時の職員の手では不十分であったため、それを引き受けて作り始めたものです。当初は簡単に考えて、ジニアやコスモス、アサガオの苗を作って植え、その頃30人近いサークルの人々に、月1回、花作りの講義をしていたため、その人たちに講習後に除草をお願いしました。でも準備不足もあって、あまり同意が得られず、その作業依頼は中止しました。

このため、会の名称を「ふれあい花壇の会」とし、新しく会員を募集して活動することにしました。この会の作業として週1回、水曜日の午後1時30分から2時間程度作業をし、その後休憩を兼ねて関連する話をするごととし、この形で現在まで5年間続けて行っています。

ただ会員は、当初は定着せず、参加後間もなく出席が遠のき、やがて来なくなるという例が多く出ました。しかしその中で変わらず協力する人もあり、また途中1年間にわたり、別に、毎月1回、折々の材料をもとに講習会を行って会員を募った結果、入会者が増え、会員に定着する人々も多くなって、現在は20名以上の会員が毎回15名程度出席して作業しています。

この人たちに対しては、単なる労力奉仕という形ではなく、ほぼ毎回の作業の後の休憩時間に、その日の

作業に関係する技術の問題を資料と共に講義しています。そして各自に、全員共通の栽培をすすめています。現在は大輪朝顔を栽培し、8月にスカシユリの球根冷凍抑制栽培を行って、秋の文化祭にそれぞれ持ち寄って展示会を行っています。また、公民館もこのボランティア活動に対応し、研修のため特別に公民館のマイクロバスを都合し、年1、2回の日帰り研修旅行を行っています。

なお、作業面では、雑草の発生を防止して除草労力を節減するため、花壇の全面に黒ポリを張り、そこに苗を植えて栽培しています。これにより雑草の発生はかなり抑えられ、労力は大幅に軽減されました。

また栽培する品目は、当初は一年草のみでしたが、育苗の労力で行き詰まり、常に手遅れの状態となったため、段々に宿根草に切り替え、平成23年度の現在は、ほぼ全面的に宿根草類を植えつけ、一部で夏作の一年草と冬のパンジー等で植栽を行って栽培しています。

また、宿根草は、後述するように花業会会員でもある、KKミヨシの小黑晃さんに変なお世話になっております。他に、筆者が家で栽培していたサルズベリやアジサイも植えています。この結果、育苗労力をかなり減らすことができました。

さらに最近になって会員が増え、労力的に若干ゆとりができ、小黑さんからいただいた苗の中で日陰地に向く種類が若干あったため、平成23年の春に、当初から栽培した花壇とは別に、一段高い本館建物南側の庭に数本ある樹木の幹の周囲に小花壇を作り、これをシェードガーデン見本園としました。加えて建物の北側にも若干植え込みの床があり、別グループがジンジャーを栽培していましたので、そちらにも増殖した宿根草の苗を提供して、これをシェードガーデンのひとつとしております。

なお栽培する一年草の育苗や株分けした宿根草の株分け苗の培養のため、育苗床が必要となりました。当



斑入り植物などを使った樹下のシェードガーデン

初は雑然と置いていましたが、かなり見苦しくなったため、これも黒ポリを敷いた上にポットのトレイを並べ、パイプに散水ノズルをつけたノズルライン方式による灌水装置を作りました。この装置で灌水の時間はかなり短縮できましたが、反面装置に故障が多く、その対応で少し苦心しています。

展示栽培と地方紙を利用した広報活動

この花壇栽培の目的の第一として、なるべくいつでも花が豊富に咲く状態を想定し、最初は花期の長い一年草を選びましたが、その後、宿根草に切り替えても年内に4ヶ月以上は開花する種類を選ぶようにしております。これには新品種などを検討する必要があるため、それらを並べて植えて展示しております。このため通路に面して長い床を作り、そこに各品種を並べて植えつけ、ラベルも全品種につけて、公民館の利用者が道を通りながら品種名がわかるようにしています。

この中で、平成23年にはペチュニアの花期の長い新品種の展示栽培を予定し、品種を集めていきましたが、落合さんも同じ考えであったため、協議して22品種を栽培することとしました。そもそも安房地域は最近夏と冬の雨量が少なくなっているため、今年もかなりの猛暑に見舞われ、このため枯死する品種も出ましたが、反面、元気よく伸びている品種もかなりあり、品種による生育の違いが明瞭に見られています。この比較はプランター栽培でも行っており、その結果とも合わせて、今後検討したいと考えています。このような簡単なトライアルもこの花壇で行うよう考えております。

なお、このペチュニアの大型品種は開花期間が長く、そのまま株は越冬して翌年も同様に生育するため利用上好都合で、とくに花色の豊富な点もかなり魅力です。ただ実際に作ると、品種による生育にかなり違いがあることが分かりましたが、これはその生育差を植えつ



ペチュニアの品種展示床と宿根草の花壇

け間隔や栽培容器の違いで利用すればよいものと考えます。すなわち、枝の伸びのよい品種は大きい花壇や栽培容器に植えて大型な状況で利用すればよく、枝の伸びの悪い品種はそれぞれの伸びの程度に対応した容器や利用方法で使えばよいことになります。これらの品種間の生育差はさらに詳細に検討されることを願っていますが、当面、今回のトライアルで大略の傾向が分かるものと思われ、今後の栽培で考慮したいと考えております。

なお、これらの比較栽培と共に、この花壇で経験する栽培の結果について、折にふれてサークルの会員に説明し、栽培に関する知識を深めるようにしております。このように講義のみに頼らず実技や実物から学びとらせる指導も当初からねらった学習方法ですが、これもかなり効果を発揮し、会員各人の技術は確実に向上しているように思われます。

なお筆者は別に、昨年平成22年の春から、地元地方新聞社である房日新聞社からの依頼を受けて毎月1回、約1200字程度の新しい花作りの記事を入れており、2～3枚のカラー写真と共に掲載されていますが、その中に実例としてこのふれあい花壇の状況とそれから考えられる技術事項も述べて普及広報のひとつとしております。

協力者と種苗提供でお世話になった方々

この花壇植栽の活動は筆者自身が公民館の職員と相談して独自に始め、活動を進めてきましたが、間もなくこれまでも述べている落合哲平さんに話して賛意が得られ、同氏の農場で生産された苗もしばしば提供していただいております。とくに今年度の場合ペチュニアの利用についての意見が一致して、栽培や、今後の植栽方法などについて種々話し合っております。この公民館の活動とは別に、筆者は市の都市計画課から



1株で1mの床幅からさらに広がるペチュニア
'ウェーブ ミスティライラック'

現在進めている海岸近くのプロムナード周辺の植栽についての相談を受けていました。この道路脇につくられた植え込み容器に植える花として落合さんの意見から花壇用ペチュニアの植えつけを市に提案。落合さんご自身がすべて栽培を行って、この夏中、かなり見事な状態で咲き続けました。このようなことで公民館の植栽活動とサークル員の指導について、今後もさらにご協力をいただきたいものと考えています。

その他公民館の植栽活動に関して、肥料、腐葉土、堆肥、その他管理用の資材関係は必要なものを購入していただいております。しかし種子や苗を購入する種苗費は会計上の購入ルートが不備で、予算もないため、独自に調達してきております。この中で必要性の高くなった宿根草の苗については、独自に購入するほかに、以前からも知り合っておりましたKKミヨシの黒見さんをお願いして各種の苗をサンプルとして何回かお送りいただき、これが花壇の整備上大変役に立っております。

また、一年草や宿根草の種子については以前の第一園芸からの関係で、KKムラカミシードから、これも試作品として少量あての提供をいただいております。とくに宿根草類の場合、成苗での購入はかなり高値となるのに対して、種子から育苗した場合、一度にかなりの量の苗の育成ができるため、キキョウ、ガザニア、オダマキなどで利用させていただきました。

以上に述べた各方面の方々のご協力で深く感謝申し上げますとともに、今後のご指導、ご援助をお願いいたしたく存じます。また花葉会の皆様にも、この栽培の状況を認識していただくと共に、ご助言、ご指導を折に触れていただけましたら、幸いに存じます。

ボランティア活動について

最後に筆者自身からすれば、現在この花壇の栽培に



落合哲平さんの植込みによる館山市内海岸のペチュニア植栽

協力していただいているボランティアのサークル会員に対しても多大な感謝の気持ちを持っております。正直言って、筆者はすでに84歳の誕生日を過ぎて事実上老齢の域に入っており、体もかなり不自由な状態で、この花壇の栽培も作業を指揮するだけの状態となっています。会員は全員が筆者の意図を十分わきまえ、確実に作業を進めており、その成果が栽培の結果となって示されております。

そこでボランティア活動という行動について考えている点がありますが、ボランティアの行動は自らの意思で、公共のために力を尽くすという行為ですが、その中に単純に作業だけに参加して協力する単純型タイプと、その作業の目的や内容を理解してさらに積極的に行動をすすめるという開発型の2つに分けられるように思われます。これはその行事や行動をリードする指導者にも当てはまることで、単純に個々の作業を指導するだけの場合と、花壇栽培であれば新しい栽培方法や材料を探し求めるという開発型指導とが存在するように思われます。指導者が開発型として行動し、ボランティアの参加者がそれを理解して協力し、積極的に行動すれば新しい形の花壇栽培が出現し、それが社会的にも大きく貢献することになるはずで

筆者の考えとして、今後公共的な場面における花壇植栽事業は予算的な事情から、可能な限りボランティア活動により行うことが望ましいと思っておりますが、その際にはとくに、以上のような積極的な開発型ボランティア活動が行われることが望ましいと考えております。今回の公民館の花壇栽培もつきつめればそのようなボランティア活動のテストケースとして行ったこととなりますが、これまでの実現の可能性は十分あるものと考えられます。